

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103797
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホームしらさぎの里
所在地	愛媛県松山市祓川1丁目2-28
自己評価作成日	平成25年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ひとりひとりの気持ちに触れ合えるよう、また幸せなひとときをより多くつくりだせるよう職員同士が仲良く雰囲気作りに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>● 居間の窓辺には観葉植物が配置され、手作りの布製の暦が置かれていた。テーブルの上のガラス鉢にはメダカや金魚が泳ぎ、クマのぬいぐるみや造花のカーネーション等を飾っておられた。時には、キーボードを使って、皆で歌を歌うようなこともある。夏には、居室から三津の花火大会を楽しまれたり、屋上から、興居島や、時には停泊中の豪華客船「飛鳥」を眺めることもできる。同階にあるデイケアに、毎日のように出かけられ、塗り絵やしり取りゲーム等に興じておられる方もいる。職員と階下の施設内を歩くこともある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

医療法人 博愛会

(ユニット名)

グループホーム しらさぎの里

記入者(管理者)

氏名

上嶋 洋光

評価完了日

平成25年5月6日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 《自分らしく》を理念に、ひとりひとりのケアについて話し合い、共通の認識にもとずき実践につなげている。	
			(外部評価) 法人の理念である「自分らしく」を事業所の理念として掲げておられる。開設当初、100歳を超えた利用者がお正月の書初めで「自分らしく」と書かれたのを、法人代表者が理念として採用されたようだ。その書を額に入れて、廊下に掲示されていた。管理者は「利用者の尊厳を守ることを大切に、利用者も職員も、自分らしく過ごせる」ようにと、職員に話しておられるが、「理念としては、文言がやや簡素過ぎるのではないか」とも感じておられた。	理念は、職員がケアに取り組む上で拠りどころとなるものでもあり、今後さらに、理念について職員で話し合う機会等を設け、さらに共有できるよう取り組まれ、チームワーク作りにもつなげていかれてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議を開く中で、地域の方の理解や協力を求めている。併設のデイサービスへの参加はできている。	
			(外部評価) 法人施設全体としては、近隣の小学校の児童の訪問や秋祭りのみこし等を通じて地域交流の機会があるが、事業所が建物の4階部分に位置することもあって、管理者は、「事業所と地域とが日常的にふれ合う機会が少なく、閉ざされがちになっている」と感じておられる。管理者は、今後「気軽に地域の方に来ていただけるような事業所にしていきたい」と話しておられた。	さらに、管理者は「地域にとけ込んだ事業所」となるためにも、まずは「日常的に利用者と散歩に出かけ、あいさつを交わすことに心がけたい」と話しておられた。地域密着型サービス事業所の意義を踏まえて、今後、どのように取り組んでいくか、運営推進会議の機会等を活かして話し合ってみてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 意見を聞き検討している。施設が4階にあるため、難しいのが現状です。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 3ヶ月に一回の推進会議において、現況を報告し、地域の方からのアドバイスをいただいている。そのなかでボランティア募集の案内についておしえていただき、ボランティアの方がきてくださる事になった。</p> <p>(外部評価) 昨年の会議には、民生委員や老人会長、市の担当者等が参加されており、ご家族には、順番に2組の方に案内を出して、参加をお願いされている。会議時には、行事や消防訓練の報告等をされた。今年1～5月までは、管理者、職員の異動等の理由で、会議の開催に至っていない。</p>	<p>今後は、地域のいろいろな立場の方の会議参加を呼びかけて、定期的な会議開催に取り組まれてほしい。地域の方達に事業所のことをさらに知ってもらえるよう、会議内容に工夫して、地域との関係作りに取り組まれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただいて理解をふかめていただき、また具体的なアドバイスをいただくことで、質の向上を目指している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の際、ご家族から「介護度はどのように決めているのですか」という質問が出され、市の担当者が答えてくださった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 転倒、徘徊の危険性の高い方に対して、見守りやさまざまな工夫を重ねているが、安全面からやむおえず、行なうときがある。</p> <p>(外部評価) 事業所入り口のエレベータは、職員が暗証番号を入力して作動するようになっている。現在、皮膚をかきむしる行為がみられる利用者の方がおられ、ご家族の了承を得て、ご本人が起きている間はつなぎ服を使用して皮膚を守るようにされている。「ご本人のお好きな歌を歌ってもらう」等、ご本人が心穏やかに過ごせる時間を作る等の支援を重ねられ、現在は穏やかな表情の時が増えているようだ。</p>	<p>さらに今後も、拘束をしないケアの実践に向けて、利用者個々のアセスメントやモニタリングを繰り返し、グループホームの特性等も活かしながら、利用者本来の「自分らしさ」を支援できるよう取り組まれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 伝達研修等、日々気にかけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、居ません。今後に向けて必要にな事であると思うので、資料等は目を当している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、説明書をもって説明し、同意をいただいている。訪問看護の担当者に立ち合ってもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に、常に声掛け意見を聞くようにしている。 (外部評価) 事業所に「お任せします」というご家族が多いが、管理者は、ご自身の携帯電話の番号をご家族に知らせ、日常的に情報交換や相談ごと等に応じておられ、ご家族の安心につながっているようだ。「家族会」は、ここ2年ほどは管理者の交代等のため、開催されていない。今後さらに、家族会の再開等、ご家族同士が交流できる機会を作ったり、ご家族の「お世話になっているので、これ以上のお願いは気の毒」という心情を踏まえて、事業所側から積極的にサービスへの意見や要望を聞き取るような機会を作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一度あるリーダー会にて提言し、その中で得た結果を現場の職員に反映させている。	
			(外部評価)	
			利用者の重度化に伴う職員の介護負担軽減のため、管理者は、現在、代表者と話し合っており、職員の増員をすすめておられる。8時半と14時からの申し送り時には、「不眠の方の対応」「トイレ介助のタイミング」「座位のより良い取り方」「入浴支援の工夫」等について、職員でアイデアや気付きを出し合い、ケア等を工夫されている。外部研修受講の報告書や資料は、職員間で回覧するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職場における問題点等、管理者が把握しリーダー会にて報告、改善の機会を得ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			個々の職員の必要性に応じて、研修案内を行ない、参加を促している。研修案内は常に目を通すよう日々の連絡でしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム連絡会には、参加するよう心掛けいゆ。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			アセスメントの段階で、本人、家族の状況、意向等を具体的に把握するよう努めている。ケアスタッフにも伝達する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントの段階で、本人、家族の状況、意向等を具体的に把握するよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントで得られた情報とご本人の状態によって判断している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事をしてもらうようにこころ掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時に 利用者の日ごろの表情や変化などお伝えして、気になる事を聞きながら共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、少しでも話がスムーズに行くよう支援している。 (外部評価) 近所の友人が訪ねて来られた際、職員はお茶をお出しする等、居室でゆっくり過ごしていただけるよう気配りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	ホールで過ごしている間は、利用者同士の会話ができるように支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退所された利用者の家族等が来所されたときには、思い出話をしたり、今のご様子を伺ったりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	意向を汲むために、聞き取りをさせていただいている。
			(外部評価)	
			職員は、日々の中で利用者とは話しながら気持ちや背景を探ったり、スキンシップしながら、思いや意向を汲み取るよう努めておられる。3ヶ月ごとの介護計画の見直しの際には、身体機能や認知機能等を中心にアセスメントされている。	その人らしい暮らしを続けるための支援を実践していくためにも、利用者個々について「これまでのこと・現在のこと・これからのこと」等の暮らし方の希望にかかわる情報収集に取り組まれ、介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	日常会話の中で、本人・家族から以前の経緯等を聞き、把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	日々の生活の中で、状況の把握をしながら個々にあった生活スタイルを理解する。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>計画作成前に、本人・家族の意向を確認している。カンファレンスを開催しながら計画を立てている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご家族の来訪時等を捉えて意向をうかがい、利用者の担当職員を中心に、全職員の意見を採り入れ、又、法人医療関係者とも話し合い、介護計画を作成されている。管理者は今後、「個別記録の書き方を工夫したい」と話しておられた。今後は、さらにモニタリングにも力を入れて取り組まれてほしい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>毎日の状態・表情・行動を個別に記録し送りの中で職員、担当医師に伝え、課題があれば相談している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>デイサービスの行事にはできるだけ参加してもらっている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>デイサービスの行事にはできるだけ参加してもらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>民生委員の方には、定期的な運営会議の時に状況を把握してもらっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>民生委員の方には、定期的な運営会議の時に状況を把握してもらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>民生委員の方には、定期的な運営会議の時に状況を把握してもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の往診が1週間に1回あり、状態の把握をいただいている。緊急時の対応も24時間にて連絡可能である。	
			(外部評価) 他の病院を受診する時には、母体病院から医療情報を提供し、ご家族と看護職員が同行されている。月2回、認知症専門医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職員に看護職員がおり、日常的な健康管理・状況把握はできている。また、訪問看護との連携もできている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 病状の把握をするため、家族や病院関係者に連絡している。面会にも行くようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化が進んでおり、常に主治医・家族と相談できる体制にしている。	
			(外部評価) 利用開始時から、ほとんどの利用者、ご家族は「最期まで事業所でお世話になりたい」と希望されるようだ。事業所では、この1年間で、5名の利用者の看取りを支援された。中にはご家族も事業所に泊まってともに利用者を看られたような方もいる。重度化した場合には、母体病院の医師がご家族等に「看取りの指針」に基づいて説明したり、話し合われており、法人全体で利用者を最期まで支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急連絡網は作成しているが、夜勤者がひとりである為、不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行なっている。	
			(外部評価) 年に2回、消防署の指導の下、併設の法人施設合同で夜間想定等の避難訓練を実施されている。事業所は建物の4階部分に位置するため、消防署の方より、まずは同階のバルコニーへ避難誘導するよう、アドバイスをいただいた。地震発生時、エレベーター内に閉じ込められた場合の対応も確認された。法人の施設全体で、水や食糧、オムツ等の備蓄をされている。さらに、地域との関係作りに取り組み、いざという時の協力者も増やしていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員が自己をふりかえり、自分が利用者の立場で考え、利用者の尊厳を損ねないよう、日々努める必要がある。また職員同士でお互いに反省しあったり、向上に努めたい。	
			(外部評価) 調査訪問時、歌の得意な方に「歌っていただけますか」と職員が声かけされたところ、童謡の「ふるさと」を3番まで見事に歌われ、皆で拍手されていた。職員は、利用者の人柄や個性を尊重されて、一人ひとりに合わせて、方言をつかったり、丁寧語で話しかける等して対応されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の状態が多岐にわたっている為、個々にあった話し方をこころがけ、できるだけ希望を引出せるよう努めている。言語障害のある方には、表情や行動で読み取っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の業務の流れに応じて、利用者に合わせてもらうことが多いが、個々の処遇を見直してゆきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 車椅子生活者が大半であるため、着やすい洋服を用意してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度の方が多くいため準備など手伝ってもらえていない。食事介助の必要な方が多く、共に食事はできない。 (外部評価) 法人内の管理栄養士が1週間ごとに立てた献立に基づいて、事業所で食事を作っておられる。利用者から「お肉が食べたい」等の希望があれば、反映できるようになっている。又、利用者のその日の状態に合わせて、トロミの付け方、ミキサーのかけ方等にも配慮されている。主治医の指導のもと、朝、夕食は経管栄養で栄養補給されるが、昼食は、職員が介助しながら他利用者と一緒に同じメニューで食事する利用者もおられる。調査訪問時、併設の訪問看護や居宅介護事業所の職員が来られて、食事介助を手伝っておられた。月に1度、「松花堂弁当」を作っておられ、利用者は楽しみにされている。職員は、食事介助を終えてから、台所で利用者と同じ物を食べておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立を元に利用者に合わせて調理をしている。水分補給を定期的に行ない、嚥下障害のある利用者には、とろみをつけて摂取してもらい、必ず補給してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの実施。できない部分については、職員が仕上げ磨きをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) おむつ交換は定期的に行ない、また必要に応じて対応している。トイレ誘導の利用者には早めの声かけ、見守りを行っている。</p> <p>(外部評価) 布パンツを使用し、トイレで排泄する方、紙パンツを使用されて日中も居室のポータブルトイレを使用する方等、利用者の力量や好みに応じた支援を行なっておられる。「座位が取れても血圧が安定しないためトイレでの排泄が難しい」との医師の判断もあって、紙おむつを使用されている方もいる。夜間、居室の壁をたたき、排泄の合図をする利用者もおられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自然に排便できるよう、水分補給、食事等で工夫をしているが、緩下剤を服用している利用者については、排便チェックにて調整している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 曜日を決めて入浴している。また発汗時・失禁時は、シャワー浴にて、不快感を解消している。</p> <p>(外部評価) 利用者の重度化に伴い、現在、利用者の8割の方が施設内にある機械浴での入浴となっている。職員は、利用者に気持ちよく入浴してもらえよう、お湯につかりながら、指をひろげたり、膝を屈伸したりできるよう支援されている。事業所では、夏場は週3回、冬場は週2回、入浴するようになっているが、見守りのみで入浴できる利用者は、希望に沿って支援されている。入浴を強く拒む利用者には、お気に入りのパジャマを用意されたり、馴染みの女性職員が利用者の見える位置で声かけして、ご本人から見えない位置での介助を男性職員が行なう等して、支援に配慮されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 食後はベッドにて休息してもらっている。疲れない程度に適度な休息の声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに内服薬の説明を綴じているが、毎食後の服薬記録をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 重度の方が多いため、デイサービスに参加するような事しか、できていない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホームが4階にあるため、単独での外出は困難である。現在の職員体制では、家族の協力なしでの外出はできていない。屋上への散歩など行っている。	
			(外部評価) ご家族の協力を得て、今年の春には、近所の川沿いの桜並木のきれいな場所にお花見に行かれた。又、ご家族と一緒に、コンビニに出かけたり、ご自宅に帰られる方もおられる。	今後さらに、利用者が地域社会とつながりながら暮らし続けられるように、利用者一人ひとりのこれまでの習慣や、個別の希望に沿った外出支援ができるよう、利用者個々のこれまでの暮らしぶり等を探りながら、出かける機会を作っていきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、金銭管理はキーパーソンがしている。現実問題として、自分で金銭管理は困難であるため、必要物品については、連絡にて持参してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にかけられる電話は設置しているが、現在は電話をかけることが困難な方ばかりである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 廊下・ホールは広く、車椅子でも充分である。台所についても利用者の様子がわかるように設置してある為安全である。明るく心地よく過ごしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓辺には観葉植物が配置され、手作りの布製の暦が置かれていた。テーブルの上のガラス鉢にはメダカや金魚が泳ぎ、クマのぬいぐるみや造花のカーネーション等を飾っておられた。時には、キーボードを使って、皆で歌を歌うようなこともある。夏には、居室から三津の花火大会を楽しまれたり、屋上から、興居島や、時には停泊中の豪華客船「飛鳥」を眺めることもできる。同階にあるデイケアに、毎日のように出かけられ、塗り絵やしり取りゲーム等に興じておられる方もいる。職員と階下の施設内を歩くこともある。</p>	<p>共用空間が利用者の居心地のよい空間となっているか、点検する機会を作り、利用者の活動意欲を触発するものや個々の動きやすさ等について、利用者の意見や職員のアイデア出し合い、しつらえ等に工夫されてはどうか。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ひとりで過ごしたい時間は居室で過ごし、娯楽時間はホールにてすごす。会話できる利用者は自分なりの時間を過ごしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人に合った家具を持ち込んでもらっているので、本人にとっても判りやすくなっている。置き場に不都合があればレイアウトしながら、配慮している。</p> <p>(外部評価) ご家族が持って来られたアジサイの鉢植えや、誕生日に職員が描いた利用者の似顔絵等が飾られていた。利用者の状態によって、吸引器を置いている居室も見受けられた。各室に温湿度計が設置されており、職員が日に2度確認し、冬場は「湿度40%以下」の場合には、濡れたバスタオルを掛ける等されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 手すりが廊下・ホールに行き渡り、歩行可能な利用者は安全に移動ができている。4階にあり、外の景色を見ながら洗面でき、居室から外を眺める事ができる。</p>	